

●アナログ出力:アンバランス1系統(RCA)、バランス1系統(XLR)  
 ●デジタル出力:同軸1系統(RCA)、バランス1系統(XLR) ●寸法  
 /重量:W402×H110×D375mm/16kg ●番号:MK1からMK2へ  
 のバージョンアップサービス(¥330,000)あり。バランス出力HOT-2  
 番ピン ●問合せ先:総研ハイ・ファイ・ジャパン ☎03(3268)5231

## アコースティックアーツ CD Player I MK2

¥1,100,000

D  
CDプレーヤー



シンフォニーのスケール感をリアルサイズで伝えてくれる

篠田寛一

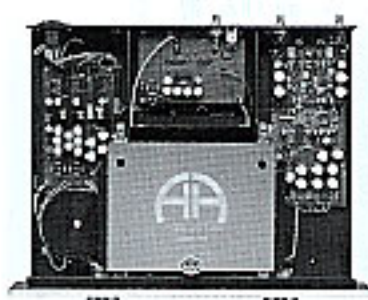
ドイツのハイエンドオーディオメーカー、アコースティックアーツのCDプレーヤー「CDプレーヤー1」のバージョンアップモデルである。サンプリングレートを24ビット/96kHzから24ビット/192kHzにアップしたのが前作からの大きな改善点だが、これに伴ってDACチップも従来のパーブラウンから、クリスタルセミコンダクター製のデルタシグマD/Aコンバーターに変更された。このほか、ドライブ、D/Aコンバーターなどの各部を追跡し、ブロック分けして各々にシールドを施した分離構造など基本的な部分は前作をそのまま継承する。また、フィリップスのCD-Pro mk2をメタルキャストにマウントしたメカニズムも前作から受け継いでいるが、CDの完璧な位置決めに寄与する独自開発のクランパーを採用しているのも注目される。

(篠田)

### PROFILE

幅広いジャンルの音楽の微妙な表情やエッセンスみたいなものを濃やかに再現する精緻な鳴り方……。これは私の同社製品の音に対するイメージである。本機も聴く前まで、先の尖った芯の硬い鉛筆で丁寧に書いた細密画のように少し細身な音で、音楽のディテールを正確に描写するタイプのような気がしていたのだが、実際に出てきた音はかなり違っていた。分解能の高い精緻な描写というのは想像通りなのだが、硬質感とか細身なところはまったく感じられない。それどころか、むしろその対極に

あるといってもいいような低い中音部が充実した密度の濃い音が支配的なのだ。たとえばオーケストラにしても低音楽器群の強奏やトゥッティから湧き上がるダイナミックなうねりをダイレクトに捉えて、シンフォニーの巨大なスケール感をリアルサイズで伝えてくれるといった具合なのである。アンバランス、バランス双方の音に際立った違いは認められなかったが、音場の空気感や楽器のディテールあるいはヴォーカルの表情などディテールな情報はバランス接続の方にやや分があるように思える。



中央のドライブメカを挟んで左側に75VAの容量をもつトイダルコアトランスと電源回路を、右側にD/Aコンバーター基板を配置。デジタル出力基板を含め、内部はブロックごとにシールドで覆われる構造。